

株式会社 松屋 11月上速報

※数値は速報値ですので、毎月中旬に発表する確定値と誤差が生じることがあります。

店名	売上高 対前年 増減率(%)	概況
銀座本店	-26.3	11月の銀座店は、Go Toトラベル等の各種施策で銀座エリアへの来街者が増加する中、引き続き、海外ラグジュアリーブランドへの強いニーズが全体を牽引し、免税を除く国内のお客様のその売上高は前年に対して4割増の伸びを示しました。また、前月同様、「イエナカ消費」「巣ごもり需要」を反映したリビング関連等の好調に加え、高価格帯の「おせち」の承りは二桁増で進捗、さらには、歳暮ギフトも「自家需要」として購買される動向が加わり前年に対して2割増となる等、コロナ禍を反映したカテゴリーが伸びを示す好材料もありました。しかしながら、婦人・紳士ともに衣料品が苦戦、加えて、インバウンド売上がほぼ消滅したことで、売上高は前年に対して28.6%減となりました。 11月の浅草店は、主力となる食品がやや苦戦する中、化粧品の特注等の売上が強く牽引し、売上高は前年を上回りました。

※ 上記「銀座本店」の数値は、「銀座店」と「浅草店」両店計の売上高対前年増減率(%)を表記いたしております。

※ 「11月上報告」は、12/14(月)15時の開示を予定しております。

(ご参考)

銀座店	-28.6	「銀座店」のみの売上高対前年増減率(%)を表記いたしております。
浅草店	2.8	「浅草店」のみの売上高対前年増減率(%)を表記いたしております。